

教科・科目	対象学年	単位数	教科書（発行者）	補助教材（発行者）
家庭・家庭基礎	1年	2	Agenda 家庭基礎（実教出版）	生活学N a v i 資料+成分表 2022（実教出版）
科目の概要と目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。 （1）人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 （2）家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 （3）様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 			
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書・補助教材やワークシートを利活用し授業を進め、人が生きてくうえで必要な家庭生活に係る基本的な知識を身につける。 ・体験的学習や実習・実験を通して自立にむけた技能を身につけるとともに、現状の生活課題などを自ら発見し、解決する。 ・グループで話し合い、意見をまとめて発表し、情報を共有しながら、課題解決にむけて取り組む。 			
評価の観点と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点をもとに、定期検査や授業・実習等の態度、ワークシート・課題レポート・ホームプロジェクト・作品製作などの提出物に生徒自身の自己評価を踏まえ総合的に評価する。 			
学期	単元・学習項目		学習内容・到達度目標	
1 年 間 の 授 業 内 容	「家庭基礎」を学ぶにあたって 生活設計 1章 自分・家族・多様化した社会に生きる - 1. これからをどう生きるか 2. 青年期の自立 3. 社会の変化と家族 4. 家族・人生・生き方と法律 5. 多様な課題を抱える家族・家庭 6. 持続可能な生活と仕事 7. 多様な生き方を保障する社会へ 2章 子ども -子どもと生きる - 1. 子どもと出会う 2. 子どもの心とからだの発達 3. 子どもの生活 4. 子どもの遊び 5. 子どもの育つ環境と社会 6. 子どもの権利と福祉 7. 子どもと共に育つ 3章 高齢者 -高齢者と生きる - 1. 高齢者を知る 2. 高齢社会の現状と課題 3. 高齢者の尊厳と自立の支援 4. 高齢者を支える制度としくみ 4章 社会福祉 - 支えあい共に生きる - 1. 生活を支える福祉と社会保障制度 2. 共生社会の実現に向けて ホームプロジェクトの実践		<ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義や内容、学習の方法、評価の方法を理解する。 ・自らのキャリアについて主体的に考えていくことの大切さを理解する。 ・個人の生き方や性の在り方など多様性の尊重について理解する。 ・青年期の意味と自立への課題について理解し、現在の自分の課題について考える。 ・家族構成の変化とその背景について理解する。 ・家族に関する法律と今後の課題について理解する。 ・家族や個人の抱える社会課題に関心を持ち、課題解決に向けた取り組みを考える。 ・仕事や働き方に関する制度や法律、仕事における社会問題を理解する。 ・現代の社会的な問題や多様性の尊重なども理解したうえで、将来の生活を想定した生活設計について考える。 ・子どもや子育てに関心を持ち、子どもを取り巻く地域の人間としてあるいは将来の親として、子どもが健やかに成長するためにはどうしたらいいのかを意欲的に考える。 ・乳幼児期の子どもの発達の特徴を理解する。 ・生活リズムや基本的な生活習慣の援助について理解する。 ・子どもの遊びの意義を理解し、子どもが安心して遊びを楽しむための工夫を考え、実践する。 ・子育てに関する制度などを理解し、子どもを取り巻く環境の変化と関連させて課題を考える。 ・子どもの権利や福祉について理解する。 ・子どもの育ちを支えるためにできることを考える。 ・高齢者について調べ関心を持つ。 ・高齢社会の現状と課題について理解する。 ・高齢期の心身の特徴や高齢者の生活について理解する。 ・高齢者を支える生徒度仕組みについて理解し、地域共生社会について具体的に考える。 ・社会福祉と社会保障制度について理解し、現在の日本の社会保障制度が直面する課題とその背景について考える。また、共生社会のあり方とノーマライゼーションなどの基本的概念を理解する。 ・自分の身のまわりの生活課題をみつけ、その解決を目指して夏休みに調査・研究・実践し、レポートを作成する。 	
	ホームプロジェクトの発表 5章 食生活 - 楽しく安全に食べる - 1. 食べることを通して 2. 栄養と食品 3. 栄養素のはたらきと食品の栄養 4. 食品の選択 5. 食品の取り扱い 6. 食品の安全性 7. 豊かな食生活の背景には 8. 食事をつくる 6章 衣生活 - 選んで着る - 1. 衣生活を見直す 2. 衣服の機能と着装 3. 衣服の材料と成り立ち 4. 衣服の管理 5. 安心して衣服を着るために 6. いろいろな人が着る衣服 7. これからの衣服 7章 住生活 - 人間らしく住む - 1. 住まいの選択 2. ライフスタイルと住まい 3. さまざまな家族・さまざまな住まい 4. 住まいの安全・安心 5. 住環境の安全・安心		<ul style="list-style-type: none"> ・「ホームプロジェクト」の活動を通して得た成果について、工夫して発表する。 ・食事の意義とその役割を理解し、現代の食生活や自分の食生活の課題を見つけることができる。 ・健康な食生活を営むために必要な栄養素、食品などの基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける。 ・栄養素の種類とその特徴に関する知識を習得し、それらを多く含む食品の特徴を理解する。 ・食品のさまざまな表示内容を理解し、食品選択を主体的に選ぶ目をもつ。 ・食品の保存、食中毒、食品添加物等の基本的な知識を身につける。 ・食の安全性について理解し、現代の食生活の問題点及び課題を考える。 ・自らの食生活について、様々な視点から問題点や課題、解決の方向性を見いだすことができる。 ・栄養や食品についての知識をもとに健康を考えた献立を作成し、基本的な技能を身に付けた調理を實踐できる。 ・衣生活と衣服に関心をもち、自らの衣生活をより豊かで充実したものにするため方法を考える。 ・衣服の機能と着装の際のポイントを理解する。 ・繊維から衣服になるまでの成り立ちや健康で快適な衣生活を営むために必要な被服材料について理解する。 ・衣服の管理について基礎的・基本的な知識を身につけ、実践できる。 ・衣服の表示について理解し、日常の衣服の手入れができる。 ・だれもが快適な衣生活を営むための考え方について理解する。 ・持続可能な衣生活に向けた行動について考え、実践する。 ・住まいの役割や充実した住生活を送るために必要な知識について理解する。 ・ライフスタイルと住まいの関係について理解し、自分の理想の間取りを考えることができる。 ・ライフステージに応じた住まいの変化について理解する。 ・健康で安全な住まい・住まい方をするために必要な基本的知識を身につける。 ・安全な住まい・住環境の確保には、多様な側面からの取り組みが必要となることを理解する。 ・災害に備える取り組みについて理解し、実践できる。 	

	6. 環境共生の今・昔 7. 住まいづくり・まちづくりへの参加	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な住まいの工夫や環境負荷の少ない住まいの工夫について理解する。 ・持続可能な社会づくりには市民の主体的な参加が欠かせないことを理解する。
3 学 期	8章 消費・環境 - 消費社会を生きる - 1. お金の管理とライフデザイン 2. 暮らしと経済のかかわり 3. 意思決定と契約 4. 購入方法の多様化 5. 消費者問題 6. 消費者保護 7. 持続可能な社会をめざして (1) 8. 持続可能な社会をめざして (2) 9. 消費者市民社会 生活設計 - 自分の未来を描く - ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフイベントにかかる費用やリスクを調べ、収入と支出のバランスについて考える。 ・家計と経済のしくみを理解する。 ・商品の購入における契約のプロセスについて理解する。 ・多様な販売方法、支払方法や消費者信用の重要性を理解し、将来の行動につなげることができる。 ・消費者被害の構造を理解し、問題商法の被害にあわない・加害者にならない姿勢を持つ。 ・消費者を守る法律・支援制度について理解する。 ・持続可能な発展のための三つの原則について理解する。 ・持続可能な社会に向けた企業の取り組み、自治体の取り組みについて理解する。 ・自らの消費行動と社会との関係や消費者情報に関心をもち、社会などに配慮しながら、主体的で責任ある消費行動をとることができる。 ・家庭基礎で学んできたことを生活設計に活かすことができる。 ・家庭基礎の学習を活かし、課題解決のために過程を組み立てることができる